



広島県支部会報



平成28年6月12日

第81号 三原市防災士会活動

第三中学校「PTA 教育講演会」

日時 : 平成28年6月12日(日) 14時30分～16時
場所 : 三原市市立第三中学校体育館
主催 : 三原市立第三中学校、同校PTA
協力支援 : 日本防災士会広島県支部三原市防災士会
参加者 : 70人

[挨拶] :

日名貞校長の挨拶で、自然災害から生徒の安全、家族の安全を守るため、防災講演を計画しました。5年前には東日本大震災、一昨年は広島土砂災害、今年4月には熊本地震が起こり、災害が身近に迫っています。当学校区の安全を守るため本日の講演を活かして下さい。

[PTA 教育講演会] : 「地震・津波、大雨・土砂災害！」知っておく事

<1> 東日本大災害 ビデオと解説 (三原市防災士会会長 竹原 茂氏) :

- ①地震と津波の怖さをビデオで示し、揺れの怖さ、震源域が大きく東日本の広範囲に揺れをもたらした。マグニチュードはM9.0、震度7など。
- ②引き続いて津波が押し寄せ、津波高さは10Mを越え。岩手県、宮城県、茨城県、福島県への津波被害が大きく、多くの教訓を残したこと。

<熊本地震>4月14日、熊本県益城町に起こり、調査に行った報告が行われた。

- ③被災地益城町自主防災会長の説明では全く予想していなかったと。
- ④地震はいつどこで起こるか分からぬ事を思い知らされた事など。

<2> 第三中学校区に迫る「地震・津波、大雨・土砂災害！」

—知っておく事— (三原市防災士会 桑木光信)

具体的に三原市で、第三中学校区での想定被害として知っておかねばならぬ事、そして早く備えておく事など要点を下記お話した；

- ①「南海トラフ地震」が三原市、第三中学校区に及ぼす規模と想定被害地震震度：6強、津波は標高3.2M、死者：1,044人、負傷者：2,500人、建物全壊：5,200棟、

経済被害：4,718 億円（三原市の一般会計予算の約 10 倍）等。

- ②津波浸水ハザードマップで第三中学校区の危険度を説明し、地震や津波の知識を持つと共に、日頃の備えが大切です。
- ③大雨、土砂災害は一昨年 8 月 20 日深夜「広島土砂災害」が発生し、74 人の犠牲者が発生した。記録的大雨が短時間に阿武山に降り、大規模土砂災害を起こし、山麓の住宅地域を襲った。類似災害は三原市でも S42 年に起こっている事、更に宗郷谷では土砂災害が発生しており、約 50 年前の事だが歴史的には 80～100 年毎に発生記録有り、同一学校区なので注意すべきです。
- ④大雨・土砂災害に対しても日頃の備えが大切な事を理解し、家族や地域で取り組む事の重要性を話した。
- ⑤昨年 11 月同中学校の全校生徒に今回と同一主旨の講話を行った。その際行ったアンケートの分析結果によると、生徒は大変関心度が高く、積極的で、寧ろ家族や地域の状況を心配している事が読み取れた。家族や地域のため中学生は防災・減災の取り組み、積極的協力を考えている。そのため中学生と家族はもっと話をする事が大切で、彼らはそれを期待している。嬉しい事です。
- ⑥最後に保護者へ繰り返し要望：
 - ・「南海トラフ地震」は必ず起こる
 - ・大雨・土砂災害も起こる
 - ・第三中学校区は危険な地域が多い
 - ・家庭で中学生と防災・減災の話をする
 - ・町内の人と協力して積極的に実践的訓練をする

[PTA 会長挨拶]

- ・本日の講演は第三中学校区の生徒、家族を災害から守るため重要な内容で、保護者の皆さんは家庭で生徒と話し合い、安全対策を築きましょう。

<あとがき>

一昨年の「広島土砂災害」を契機に県内の市町では防災意識は高まり、取り組みも向上している。大規模災害が予想される「南海トラフ巨大地震」への備えを市内の学校区の PTA でも考え、防災・減災意識、実質的訓練など防災教育が実施される事が期待され、必要だ。三原市防災士会としても一層協力して行く。

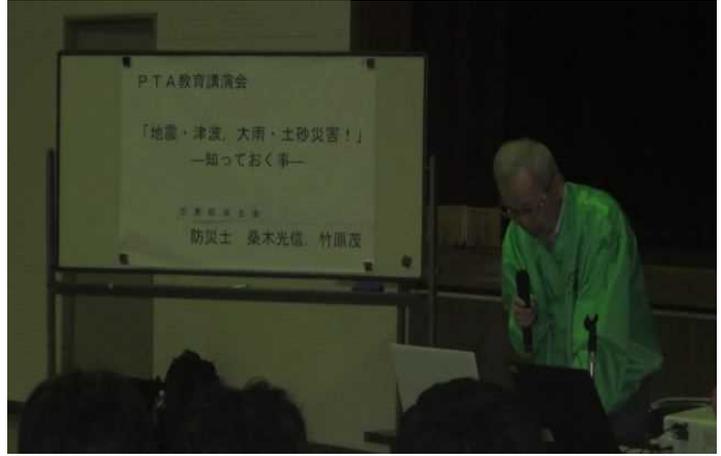
(文責 桑木)

<参考資料>： 「私だけの防災ハンドブック」が配布された。

<参考写真>： 次ページに示す。



講師 竹原茂 防災士



講師 桑木光信 防災士



出席者 1



出席者 2



出席者 3

終り